

# お元気ですか？

有田史談会 月例通信

事務局 中村貞光  
090-4740-4752

■ 今期はコロナ禍で始まり半年があつという間に過ぎた感じがします。年初の食事会や例会も開催出来ないまま活動が停滞するのは寂しい限りです。

この夏の猛暑がようやく落ち着くこの時期、今度は台風季節到来です。台風9号、10号が九州西沿岸を通過しました。特に10号は過去に例を見ない大型台風との情報で、台風に備えるためホームセンターやスーパーは大混雑しました。

台風への急場しのぎの備えの中で不安な一夜を明かしましたが、幸い大きな被害もなく安堵しました。

地球温暖化による海水面の温度上昇が大型台風を生み出しているとの指摘もあり、日ごろからの備えが急務になりそうです。

## 「高麗谷窯跡の秘密を探る」

■ 8月22日、多久市中央公民館にて多久市郷土資料館開館40周年記念企画展が開催され、大橋先生による「高麗谷窯跡の秘密を探る」の演題で講演が行われました。コロナ対策のため検温と本人確認があり、座席指定で参加者は100名、史談会からは坂井、井手、鶴さんが参加しました。他の皆様もぜひご観覧下さい。高麗谷窯跡展は9月21日まで。

**日本最古期の磁器 初展示**

多久市郷土資料館 高麗谷窯跡展

**陶祖・李参平が試験焼成か**

多久市多久町の市郷土資料館で、高麗谷窯跡展が、器が焼かれたとされる16年より古いと想定される、李参平の陶器が、日本でも最も古い磁器の陶器として知られている。李参平が最初に多岐開いた窯跡で、焼成された陶器が、可能性もあり、興味深い窯跡で、試験的に磁器を焼成したと考えられる。同市西多久町にある高麗谷窯跡は、窯跡の時期は焼成手、谷窯跡は絵を施した「箱唐」で知られている。

津の窯として知られている。2003年度の調査で、李参平が最初に多岐開いた窯跡で、焼成された陶器が、可能性もあり、興味深い窯跡で、試験的に磁器を焼成したと考えられる。同市西多久町にある高麗谷窯跡は、窯跡の時期は焼成手、谷窯跡は絵を施した「箱唐」で知られている。

遺物の磁器片は、30年ほどに発掘された。出土品を整理する中、焼成時に下に敷く道具と焼けてくっついて、確認された。高麗谷窯跡で磁器を焼いたことが確認された。

肥前の陶器に詳しく大橋康二・九州陶磁文化館名誉顧問は、「ケガレ江三兵衛集団が日本で最初に、磁器の試験焼成を始めた場所と考えられる」とする。

展示では磁器片4個や、表面に線彫りして白土を埋め込む「敷散」の手法で作られた280点を紹介。絵唐津については「文様100選」として、アヤマや松文字が多種多様なデザインの陶片を並べている。

会期は9月21日まで。無料。8月29日午後1時半からは大橋さんの講演「高麗谷窯跡の秘密を探る」が同市中央公民館ホールである。先着100人。無料。同資料館（095-275-3002）。（古賀英敏）

## 有田八十八ヶ所めぐり

■ コロナが収束してくれない状況下で開催を躊躇しておりましたが、朝晩の気温が幾分下がり秋の気配が近づいてきましたので、希望者のみでコロナ対策を十分行いながら活動を再開の予定です。引率は前田順三さんをお願いしておりますが、国勢調査員としての業務があり、今月下旬を予定しています。

さて、今回は泉山・中樽・上幸平地区を巡りましたが、今回は白川地区からスタートする予定です。日程は後日メール等でお知らせしますが、午前中の開催を予定しています。

コロナ禍の運動不足やストレス解消を目的としていますので無理のない範囲で巡る計画です。

## 第3回古窯跡探訪 「予告」

■ 古窯跡の見学も楽しみの一つですが、今月は秋の彼岸明けを予定しています。お天気次第にはなりますが実施時間は午後1時半を予定しています。

今回は外尾山・丸尾（外尾山窯跡・外尾山廟祖谷窯跡・丸尾窯跡）を回り、時間にゆとりがあれば戸杓（禅門谷窯跡・一本松窯跡・向ノ原窯跡）まで回りたくと考えています。日程が決まり次第メール等でお知らせ致します。楽しみにお待ち下さい。

なお、古窯跡の詳細については有田町歴史民俗資料館のホームページで見ることが出来ます。

※<https://www.town.arita.lg.jp/main/221.html>



**追伸**

今度も連絡事項のみの史談会通信になりましたが、小生も本年度初めての国勢調査員として作業に追われ、肝心の史談会通信が遅れてしまいました。ごめんなさ～い！